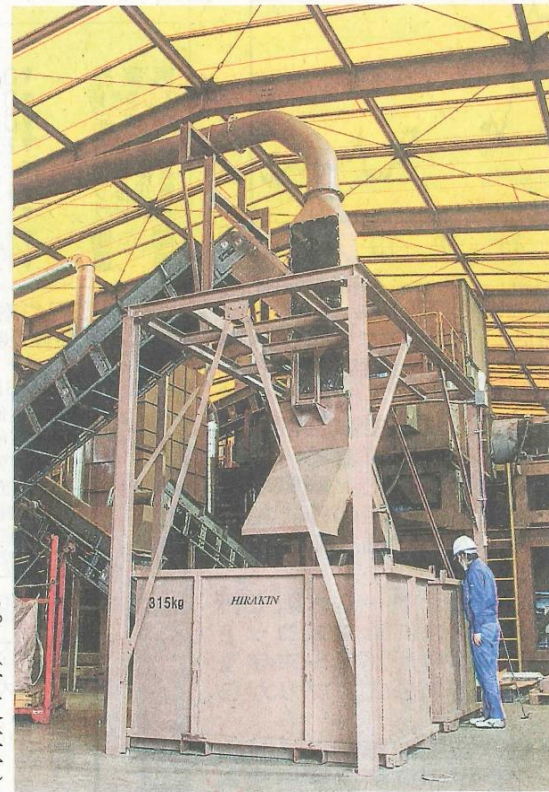


# 金属や硬質プラ 回収能力を強化



改修で作業効率を高めたリサイクルステージ玉島

## 平林金属 玉島工場の設備改修

る。(伊東圭一)

リサイクル業の平林金属（岡山市北区下中野）は、廃棄された自動車や小型家電のスクラップを再資源化する工場・リサイクルステーション玉島（倉敷市玉島乙島）の設備を改修した。ラインの作業率を高め、金属類や硬質プラスチックの回収能力を強化した。

プラスチックなどを回収する「2次ライン」をベルトコンベヤーで連結し、作業効率を向上させた。2次ラインには、風を当てて重さの違いで硬質プラスチックを選別する装置などを増設した。投資額は約9千万円。

以前は、2次ラインに投入するのにショベルカーを使っていた。作業が追いつかず、破砕くすの約3分の1は2次ラインを通すことなく未選別のまま処分せざるを得なかったという。

10月に本格稼働を始めており、金属類の回収量は1・5倍になる見込み。硬質プラスチックは今後、ポリプロピレンなど樹脂の種類ごとに選別できる設備を導入し、より高度な再資源化につなげる計画。

同工場は2006年に稼働し、グループ会社のヒラキン（同所）が運営する。同社は「電子基板に含まれる希少金属や、まだ十分にリサイクルできていない樹脂の資源循環に貢献したい」としてい

2021年12月21日(火)山陽新聞朝刊